

実務で 5 年かかって身に付ける Excel VBA を 1 日 で。

『Excel VBA ラボ』公式パンフレット

『Excel VBA』とは何か？

Excel をプログラミング言語によって操作することで、ボタン 1 発の複雑な処理が可能に。

The image displays two screenshots from an Excel VBA training document. The top screenshot shows a worksheet titled 'マクロ記録トレーニング' (Macro Recording Training) with a table containing the values '1234' and 'aiu'. Two buttons are visible: 'はじめてまろボタン' (First Macro Button) and 'すべてくりあまるボタン' (All Done Button). The bottom screenshot shows the VBA editor with a list of macros and a code window. The code window shows a macro named 'Macro3' that performs a series of actions, including selecting cells, entering data, and formatting.

マクロ記録トレーニング

以下では、マクロ記録の一連の作業の流れと、コードの走り方、「F8実行」、「F5実行」、「Alt+R、Enter実行」を学ぶ。

設問1 マクロ記録を Alt+L→R で始めて、下記の作業をこのシートで行い、最後にマクロ記録を終了しなさい。なお、マクロ記録の途中で適宜、「r」でコメントをつけること。

作業メモ (まずはA2にカーソルをおいた状態でマクロ記録)

- A3に 1234 を代入。
- A4のセルの内部を黄色に塗りつぶし。
- A3の文字色を赤色に。
- A5に aiu と代入。
- A3をコピーして、B5にペースト。

VBA Editor Code:

```

Sub Macro3()
    Range("C358").Select
    End Sub
Sub Macro4()
    Range("C358").Select
    Range("C427").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "あいう"
    Range("C427").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "1234"
    Range("C427").Select
    Selection.NumberFormatLocal = "#,##0"
    End Sub
Sub Macro4()
    ActiveWindow.Zoom = 280
    ActiveWindow.Zoom = 250
    ActiveWindow.Zoom = 235
    ActiveWindow.Zoom = 220
    ActiveWindow.Zoom = 205
    ActiveWindow.Zoom = 190
    ActiveWindow.Zoom = 175
    ActiveWindow.Zoom = 160
    ActiveWindow.Zoom = 145
    Range("A3").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "1234"
    Range("A3").Select
    With Selection.Interior
        Pattern = xlSolid
        Color = 65535
        IntAndShade = 0
        PatternIntAndShade = 0
    End With
    Range("A3").Select
    With Selection.Font
        Color = -16776961
        IntAndShade = 0
    End With
    Range("A5").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "aiu"
    Range("A5").Select
    Selection.Copy
    Range("B5").Select
    ActiveSheet.Paste
    End Sub

```

「Excel VBA」とは、「マクロ」とも呼ばれるもので、上記画面右のような Editor においてプログラミングコードを記述し、Excel のボタン 1 発での自動処理を可能にするプログラミング言語です。「行の挿入」「シートのコピー」「セルの装飾」「多数のシートの削除」「Excel ブックの複製」などは通常の Excel 関数ではできませんよね。Excel VBA なら、関数では達成できないほとんどの Excel の定形処理を自動的に行うことができるのです。



『Excel VBA ラボ』コンセプト

新しい Excel VBA 教育メソッドの確立

マクロ記録の最大活用

オブジェクト、メソッド、プロパティの徹底理解

インテリセンスとポップヒントの活用

オブジェクト・メンバーアプローチ

ショートカット・トレーニング

講座内反復トレーニング

返しの明確化・文型判定

●『Excel VBA ラボ』は、Excel を実務で利用している人で、初めてプログラミングや VBA（マクロ）を学ぶ人に向けて設計された講座。『VBA ラボ 1（超入門編）』→『VBA ラボ 2（入門編）』→『VBA ラボ 3』・・・と続く連続構成となっているため、必ず『VBA ラボ 1（超入門編）』からご参加ください。Excel VBA は基本としておさえるべきノウハウや知識が多いため、プログラマーでない方は、徐々にステップアップしながらプログラミング的なノウハウに慣れつつ堅実に学習していく必要があります。

●現代 VBA 教育で比較的軽視されてしまっている「マクロ記録」を全編を通して使っていくことで、マクロ作成時の「つまづき」を低減すると共に、VBA 記述の厳密な仕組み・文法・修正のコツを学び、幅広い機能を備えたマクロを作成できるための基礎能力を養う。

●特に VBA ラボ 1・2 においては、巷の一般的な Excel VBA 講座のカリキュラムより、プログラミング要素を抑制し、**基礎的な部分の操作トレーニング・記述原理の理解・暗記を徹底して行う構成**としている。日本の VBA 講座でも最も「厳密かつ緻密」に順番を追って解説されるならかななステップ設計にしているため、時間をかけて徹底的に 1 つ 1 つ固めながらカリキュラムが進行する。

●VBA の基本ショートカットや、マクロ記録からの VBA 修正をとにかく反復する。

●VBA 文法・記述の根幹となる概念を重視。「**オブジェクト、プロパティ、メソッド、インテリセンス、自動ヒント、返し、文型**」を正確に理解していくことでコード記述の成否を明確に解説する。

●Excel/VBA についての前提としては、「0 から」解説であり、VBA ラボ 1 は「超入門」の位置づけとなるが、Excel 自体の前提知識としては、Excel 応用のレベルまで既習（習得済）であることを前提とする。（セルの書式設定や Excel のショートカットはかなり理解しており、既に慣れていることを前提として進めていく。）

●VBA の基礎文法に関しては、非常に概念的に硬質な説明を行うため、**論理的なものへの理解力は必要**である。

●プログラミング要素の強い単元（変数、ループ、条件分岐）は、VBA ラボ 1（超入門編）・VBA ラボ 2（入門編）では扱わない。



講座の概要・対象イメージ

対象イメージ・対象レベル

Excel VBA ラボは、Excel の基本原理や挙動を正確に理解し、ショートカットなどがかなり身につけていることを前提として、Excel を使って VBA（プログラミング）をゼロから学習します。Excel ラボの『応用編』や『パーフェクトオペレーション編（機能編）』で習うような様々な機能やショートカットに習熟していることを前提としています。



「Excel VBA ラボ」よくある質問



質問 Excel VBA を全く触ったことが無いのですが大丈夫ですか？



ゼロから講義していくので、VBA の素養は無くとも大丈夫です。ただし VBA（マクロ）は、正確な操作ができていることが Excel 以上に重要です。Excel 講座よりも上級の講座ですから、タイピングが遅かったり、ショートカットを普段あまり使われていない方は付いてくるのが難しいかなと思います。VBA は相当な数のショートカットが登場し、それらを適切に使いこなしていくことが必要不可欠です。Excel 講座で登場するようなショートカットも多数使用していきますので、ショートカットへの抵抗が少ない必要があります。



質問 Excelの実務経験がないのですが、Excel ラボの講座はいくつか受講しました。VBA ラボ 1(超入門編)に参加して、大丈夫ですか？



実務経験がなくとも、Excel のショートカットを多く使いこなせており、コピーやフィルター、並べ替えなど『Excel ラボ（パーフェクト・オペレーション編）』で多く扱っている Excel の挙動と操作に慣れているならば大丈夫です。逆に、ショートカットをほとんど覚えていない場合は、難しいでしょう。また、厳密な英文法講座のような論理的な難しさがあるので、そういった論理性への興味や意欲が一番必要です。



質問 『マクロができると良いよ。』と先輩に言われたのですが、マクロと VBA は同じですか？違いますか？



マクロと VBA は、ほぼ同じです。

- ・「マクロ」とは、ボタンをポンで一括実行できるような機能のこと。
- ・「VBA」とは、それを実現するためのプログラムのコードの言語・文法体系のこと。

つまり、「VBA という言語を記述して、マクロを作る（＝ボタンポンを達成する）」わけですから、VBA というプログラミング言語ができなければマクロは作れないし、マクロを作るには VBA コードを修正できないといけません。『マクロができると良いよ。』と言われたことがある環境で、仕事でマクロを使いたい方は VBA ラボ 1. 超入門編から参加することで、身につけていくことができます。



質問 Excel VBA（マクロ）は、実務で役立つものですか？



実務で役立ちます。「躊躇せず」、「つまづかず」、「自然と」、VBA を使えるようになるならば、Excel 実務の高度な自動化を達成できます。今まで Excel の関数や機能だけではできなかったことが、必ずできます。ただ VBA は、学習領域が広くノウハウ性が非常に強いものなので、相当な基礎トレーニングをしないと身につかずに終わってしまいます。Excel VBA は、プログラミング言語の中では最も実務に直結しており、Excel があれば明日から会社で使えるものです。意欲ある人は、ぜひプログラミング学習のスタート地点に立ちましょう。いずれ到来するかもしれない「総プログラマー社会」。そういう時代の流れに相對しても、強固なプログラミング能力を養っていれば、自信を持ち清々しい気持ちで前に進むことができます。この講座はそういう新しい時代への『入門』講座です。



講座カリキュラム「VBA ラボ 1（超入門編）」

Excel VBAラボ1 講座カリキュラム（全 8 h）

マクロ記録と VBA のショートカット 編

- ・マクロ記録と VBA 基礎文法理解
- ・基本設定と VBE の操作
- ・Excel と VBA のショートカット
- ・ショートカットによるマクロ実行

VBA 基礎文法 編

- ・プロシージャ名のルール
- ・コードに書ける単語
- ・オブジェクト・メンバーアプローチ
- ・インテリセンスによる入力補完
- ・黄色モードとリセット
- ・代入演算子
- ・2 種類のプロパティとポップヒント
- ・マクロ記録と色
- ・With ～ EndWith は反復の省略構文
- ・不要なコードを消す
- ・メソッドと引数
- ・「文」とは何か
- ・VBA の文型判定



「VBA ラボ 1（超入門編）」到達レベルイメージ



質問

超入門編では、マクロでどのぐらいのことができるようになりますか？



VBA ラボ 1（超入門編）は「基礎文法の徹底理解」と「操作トレーニング」に終始しますので、到達レベル的には、英語学習で喩えると「平叙文や疑問文が文法的に完璧に書ける状態」「品詞や SVOC が識別でき、理解できる状態」になります。

VBA で具体的に言うと、

- ・セルの指定の仕方やその正しい文法理解
- ・オブジェクト・プロパティ・メソッドについての基本理解
- ・マクロ記録の修正方法
- ・セルのコピペ

などはできるようになりますが、それ以上の内容は「超入門編」では扱わず、続編の VBA ラボ 2.「入門編」で解説していくことになります。逆に言えば、英語学習で、「品詞や SVOC が見えていないのにさらに上の文法事項を慌てて勉強」しても身につけるのは難しいように、**Excel VBA では基本記述・基本文法の正確な理解と習熟**に最初は時間をかけなければ、その後の上達に繋がらなくなるのです。



講座カリキュラム「VBA ラボ 2（入門編）」

Excel VBAラボ 2 講座カリキュラム（全 8 h）

マクロ記録とシート間処理、Excel 機能の活用

第 1 章：入門文法・記法・作業フローの徹底解説

VBA 基礎文法の確認
返しの型の分類
インテリセンスと Information
マクロ記録と行・列の参照
文型の判定
記録 Module と自己記述 Module
Call ステートメントのトレーニング

第 2 章：ワークシートの処理・シート間処理

全体指定と単体指定
ワークシート参照
Worksheet オブジェクトのメンバー
シート名とコードネーム
アクティブ省略
アクティブ遷移
シート間コピー
Range.Copy と Worksheet.Copy

第 3 章：Excel 機能の活用とマクロ記録

Now の活用方法
マクロ記録とフィルター処理
フィルターとシート間コピー
Range.CurrentRegion プロパティ
ピボットテーブルと元データの更新
マクロ記録とピボットテーブル作成



「VBA ラボ 2（入門編）」到達レベルイメージ



質問

VBA ラボ 2（入門編）では、マクロでどのぐらいのことができるようになりますか？



『VBA ラボ 2（入門編）』の到達目標としては、ラボ 1 に引き続きマクロ記録を活用することで、「シート間処理」のマスターがメインになります。また、Excel の機能を使ったよくある処理をボタン一発でできるマクロを作ること为目标としていきます。個人的には、文法解説に終始する「ラボ 1（超入門編）」と比べて、「ラボ 2（入門編）」は少しレベルが上がるだけで一気に視界が開け、様々な便利な機能をマクロで作れそうだなあ！」と感じていただけるのではと思います。具体的には、

- ・フィルターを掛けて、別シートにデータをコピーするマクロ
- ・ボタン一発でピボットテーブルを作る、ボタン一発でピボットテーブルを更新する

などができるようになります。いずれにせよ、VBA ラボ 2 の講義時間の中では、「オブジェクト・メソッド・プロパティなどの概念理解」「操作トレーニング」「単語の暗記」「マクロ記録のコード修正」など、引き続き徹底的にトレーニングしていくことで、「VBA 力」の醸成・定着を図ります。

連載『Excel ラボ』 開発インタビュー 4

「Excel VBA ラボ」 プログラミング教育メソッドの確立



今はプログラミングと関係の無い人でも、いずれプログラミングを学習しなければならない日が必ず来ます。

けれど、「プログラミング」を学習し始めた人のうち、身につかずに終わる人が大半なのではと思います。プログラミング教育は、まだまだ黎明期であり適切な学習方法が行き渡っていないため、誤った学習方法では、「わかった気はするが、結局モノにならない。」ということが起こるのです。私はこの講座で、「新しい時代のプログラミング学習メソッドを確立しよう」と思いました。

『新しい時代のプログラミング学習メソッドの確立』 基礎理解・基礎暗記・基礎操作練習の徹底。

「Excel VBA (ブイ・ビー・エー)」は、プログラミングであり、Excel よりも身につけるのが難しいです。

目の前の「セル 1 個」に集中して関数を作っていく Excel とは違い、VBA は、「複数の画面を同時に注意しながら扱い、コーディング自体の文法正誤を判断しながら、プログラムの論理に気をつける」など『多面的配慮』を同時に行うことが必要だからです。

多くの人は Excel VBA の学習で、まず「プログラミング的に登ろう」とします。つまり、「変数」「ループ」「条件分岐」などのいかにもプログラミングっぽいことを学習することを以て「学習の前進である」と判断しますが、すぐ躓きます。

目の前の「プログラム論理の理解」は、VBA 学習では、気をつける要素のうちの 1 つに過ぎないからです。

VBA では、気をつける要素は「1 つ」でなく「無数」にあります。それらに同時的に配慮する力が正しい『プログラミング能力』です。

だから、いきなり「プログラミングっぽい」ことから学習し始めた方々は、プログラミングの勉強をしながらも「全体的にはわかっていない」という違和感を払拭できず、プログラミングのあるべき勉強方法をずっと探し続けることになるわけです。「もっと、良い VBA の学習方法がどこかにあるのではないかな?」「何かプログラミングの基礎が抜けていることはわかるが、どういう基礎が足りないかがわからない。」「自分もバカじゃないから、本に書いてあることはまあまあ理解できるけど、完全には論理が繋がっていないぞ。何か「つなぎ」が足りない。」と。

私の感覚では、VBA 学習に取り組む大抵の人は「プログラマーという職種ではない」はずです。

だから、学習にあたっては「プログラミング的に慌てて登る」前に、まずは基礎的な要素に絞って、1 つずつ徹底的に理解、暗記、そして操作の反復練習をしておいたほうが近道だと思います。

きちんとした基礎練習を飛ばして、プログラミング論理(変数・ループ・条件分岐など)にいきなり入り込み登っていくと言うのは、スポーツで言えば、フォーム(型)が身につけていないのに、やみくもにボールを蹴ったり、投げたりしてゲーム(試合)ばかりやってるようなものです。何もやらないよりは悪くはないけれど、その後の上達を考えると、最初のうちに、焦らずに、きっちりフォームを身につけた方が結局近道です。

とにかく、VBA の「基本理解・基本暗記」、操作の「基本フォーム」を固めてから前に進みましょう。

近い将来に「国民みんながプログラマー的にならないとヤバイよね。」などと SNS で呟く人が激増するのかなと思いますが、同時に、「では、やるか?」と言ってプログラミング学習を始め、跳ね返されてしまう人も激増すると思います。

たしかに「プログラマー」という人達は「プログラムの論理」にも詳しいのですが、本当は「その周りの基本動作やコード修正時のノウハウ」がかなり広く身につけているものなのです。

それなのに、「プログラミング学習」を始める一般の人が「基本動作やノウハウ」を身につけずに、「正しいプログラム論理・正しいコード記述」だけを勉強してしまうと、ノウハウが無いので、うまく動くコードにできずに躓いてしまうのです。

この講座は、日本で一番「入門的なことだけを長い時間を掛けて教える Excel VBA 講座」だと思います。変数も、ループも、条件分岐も出てきません。だから、既に VBA の中級者・上級者である人は全く参加するべきではありません。

ただし、同時に日本で一番「入門的な部分の理解の難しさや操作トレーニングの重要性を伝える Excel VBA 講座」だと思っています。

VBA の本当の入門的な内容だけにフォーカスして訓練する中でさえ、マクロ（VBA）を「自然に」「躊躇なく」「一瞬も止まらずに」作れる為には、相当広い基本知識の整理・暗記・習得と、基本操作のトレーニングが必要だと思えるだけでも、VBA 文法の正確な理解は、緻密で難しいこともお分かりいただけると思います。だから、VBA ラボ 1『超入門編』からの学習ですが、かんたんなわけでは全くありません。この講座は操作的にも論理的にも硬質で、私の講座では、最も難易度の高い講座だと思います。だから、受講者の方は VBA 初心者で全く構いませんが、「Excel 自体のショートカットを日頃から十分使いこなしていること」と「これから VBA を、プログラミングを習得できるように頑張るぞ」という本気は必要だと思います。（Excel 自体をきちんと習ったことが無い方は、焦らず『Excel ラボ（基礎編）』から学習いただくで飛躍的に完全な Excel 力を構築できますので焦らずイチから理解を深めましょう。）

カリキュラム的には、もちろん VBA を 0 から学んでいくものです。Excel を日頃から使いこなしている方であれば、「マクロって何？ VBA って何？ Excel なら結構毎日使ってるけどなあ。」という「VBA に関しては全くの初心者」状態の方が来ていただいて大丈夫です。

丸一日掛けて、VBA・マクロのイメージを固め「戸惑い」「躊躇」「不安」を払拭し、「慣れ」「自信」を身につけられるようにとにかく徹底トレーニングしましょう。本質的な理解を得ることができれば、その後の VBA 学習が飛躍的にスムーズに進むようになります。

「Excel VBA（マクロ）は、実務で役立つか？」

Excel VBA は、「自動化をしよう」「業務効率化をしよう」という会社であれば、実務で必ず役立ちます。「躊躇せず」「つまづかず」「自然と」VBA を使えるようになるならば、Excel 実務の高度な自動化を達成できます。今まで Excel の関数や機能だけではできなかったことが、必ずできるようになるものです。

ただ VBA は、学習領域が広くノウハウ性が非常に強いものなので、相当な基礎トレーニングをしないと身につかず終わってしまいます。基礎を飛ばした人は必ず「以前、少し VBA をかじったけど、その時はできた気がしたんだけど、結局身につかなかったんだよね。」と語ることになります。ほんとうはその人は基礎的な部分にフォーカスして、もっともっと徹底的にトレーニングをしなければならなかったのです。

VBA は、プログラミング言語の中では最も実務に直結しています。Excel があれば会社で実際にプログラミングを動かせるわけで、ほとんどの会社ですぐに使えるプログラミング言語です。だから、一度きちんと「全体をモノにすれば」あとは、実力が定着し、業務効率化に貢献できます。

絶対に役に立つものだから、意欲ある人は、今こそプログラミング学習のスタート地点に立ちましょう。

いずれ到来するかもしれない「総プログラマー社会」。そういう時代の流れに相対しても、強固なプログラミング能力を養っていれば、自信を持って、清々しい気持ちで前に進むことができるはずで、この講座はそういう新しい時代への『入門』講座です。

お問合せ・お申込みはお早めに下記より。

Excel ラボ代表：飯富（いいとみ）

お問合せ Email : contact@excel-labo.com



Excel ラボ

〒160-0022 東京都新宿区新宿 7 丁目 26-7 ビクセル新宿 1F

200115



Excel ラボ

実務 10 年分の Word 力を 1 日で身に付ける 唯一無二の原理解説講座 『Word 原理解明講座』(全 8 h)

Word をずっと使っていて、「おかしいな」「思ったとおりに動かないな」と感じたことはありませんか？

その悩みは 1 人では、決して解決できません。なぜなら Word は超複雑な挙動をするソフトであり、一般的な Word のトレーニングでは挙動を読み解くことはできないからです。

この原理解明講座は、正しく Word が使えるようになるために、Word の挙動と正面から対峙した唯一無二の講座です。

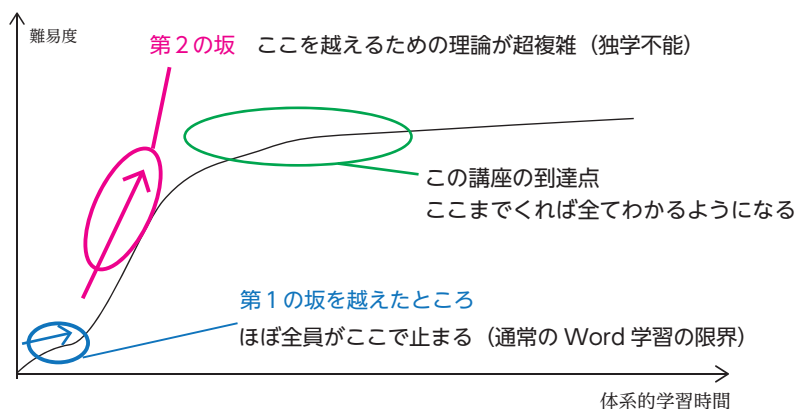
新開発のミニマル・クエスチョン方式で、どこに行っても通用するハイレベルな Word 力を身につけましょう。



Word なぜ使いこなせない？

Word に少し慣れると、「タブやインデント」「箇条書き機能」「見出しスタイル」などを使おうとする傾向があらわれますが、思った通りに使えずにつまづきます。実は、Word には「2 つの坂」があるといえます。下の図を見て下さい。

図解：Word 学習時の難易度の上がり方



勾配のゆるい「第1の坂」は、最初に Word を習うときのもので、これは一般的な「Word 学習」でクリアすることができます。

しかし、その後 Word を利用していくうちにすぐに勾配の急な「第2の坂」に出会い、ほぼ全員がここでつまづきます。

たとえば、「スタイルや箇条書きを使おうとしたけれど、動かない・解除できない・余計に変になった。」という状態に陥るのです。ほとんどの人はここを乗り越えることができず、結局は「習った機能を使えない」ことに気づきます。

仕方なく、Backspace や Space で無理矢理レイアウトを整えたり、箇条書きを全部 OFF にするような強硬策でやり過ごすのです。

心のどこかで、「本当は正しいやり方があるのだらうな」と解決策を待ち望んでいるはずですが、どうやったら解決するのかはずっとわからずにいます。



実は、Word の最初は Excel よりずっと難しい。

Word は簡単とされていますが、違います。本当は Excel よりも最初がハイレベルで難しいのです。Word の基礎は「複雑」で「高度」なのです。その「難しい基礎」を固めて、第1の坂と第2の坂を一気にのぼるのがこの講座です。複雑な「第2の坂」を越えるために原理追究・原理解明が必要となるのです。最初の難しい局面さえ越えれば、あとは自由自在となります。この領域に一気に到達しましょう。

この講座では、初めて「Word の第2の坂」を越えられるような厳密な挙動解析・原理解説を行っていきます。簡単な内容ではありませんが、意欲と学問的探究心があれば、初心者でも Word を一気にマスターできるとても楽しい講座になっています。



「第2の坂」を越える。ミニマルクエスチョンと原理解説。

Word を扱っていくための基礎知識や、可視化のやり方をほとんどの人は知りません。まるで「5文型を知らない学生の英文法テスト」のように全てが当てずっぽうで行き当たりばったりになるのです。Word の「第2の坂」を越えるためには、

- ① 見えないものを見えるようにする。
- ② 設定の対象階層を把握すること。
- ③ 1つ1つの不可思議な挙動を分析し、何が起きているのかを理解することが必要です。

この講座では、「Word チェックドリル」「ミニマルクエスチョン」「原理解説」により、必要な基礎知識や階層の検出方法を学びながら、挙動の1つ1つを理解し、正しい解決策を学んでいきます。

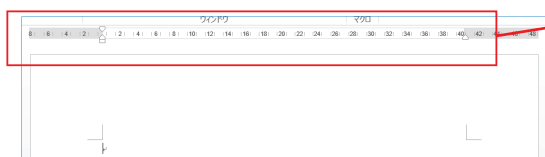


Word 原理解明＝「見えないものを、見えるようにする。」

Word を使いこなせていない状態では、下記のような間違った利用法をしているはずです。

この使い方では、書式設定が見えておらず、対象階層への意識も希薄となるため、正しく使えません。

!? 間違い1 職場の「Word」を開いたときにルーラーが出ていない。

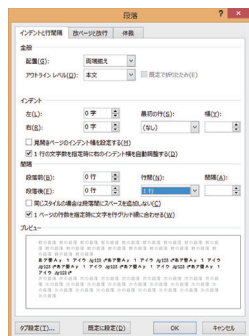


ルーラーと呼ばれる部分。

これがなければインデントを把握できない。

!? 間違い2

段落ダイアログで、インデント設定や、行間設定を正確にかけられない。



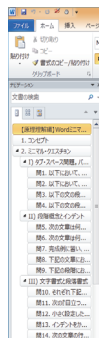
!? 間違い3

スタイルのウィンドウを使ったことがない。

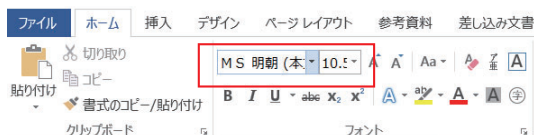


!? 間違い4

長文のドキュメントなのに、ナビゲーションウィンドウに何も表示されていない。



!? 間違い5 本文全体のフォントを設定するとき、下記の場所から行っている。



Word で難しいのは「入力」ではありません。「書式設定」です。書式を正しく設定するためには「今、どんな書式設定がかかっているのか」を検出していく必要があります。「書式」という「見えないもの」を「見える」ようにして扱っていくことが Word 上達の出発点です。



Word 原理解明講座（8h）

Word の原理は超複雑であり、本で学んで理解することはできない。

Word の挙動・仕組みを徹底解明し、悩まず Word を使いこなせるようになる唯一無二の講座です。

プロフェッショナルを目指す人の本格的 Word 講座です。

概要

Word 利用者のうち、99% は Word の挙動を理解していないため、「使いづらい」「気持ち悪い」と言いながら操作している。この講座は、Word の挙動に正面から立ち向かい、あらゆるトラブルに直面しながら、その挙動の真因を探り最善手を模索する講座。

Word の真の活用方法である、「箇条書き・段落番号とスタイル機能の駆使」により、一生悩まない Word 力を 1 日で養成する。また Word 分析のショートカットも多数学び、実務現場の Word マスターとなれるような圧倒的な Word 力を身につける。

独自考案のミニマル・クエスチョン方式により、時代の最前線を行く原理解明講座。

職場で Word を使いこなせる人はいません。しっかり学んで、唯一無二の Word 力を手に入れましょう。

基礎編 対象レベル

- ・「Word 気持ち悪いな」「Word よくわかんないな」「Word 一回ちゃんとやりたいな」と一度でも感じたことのある方。
- ・企業で IT 部門や法務部門などマニュアルや契約書を多数作成する可能性のある方。
- ・正しい Word 報告書・提案書を作成できるようになりたい方。
- ・Word の「スタイル」機能をマスターし、「Word 使えますよ」と胸を張って言いたい方。
- ・卒業論文やコンサルティングレポートなど、本格的な Word 文書作成を控え、事前にきちんと学習しておきたい方。

基礎編 カリキュラム

【原理解明編】

- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| ・ Word 4 つの可視化のメソッド | ・ Word 書式 4 階層アプローチ |
| ・ Word 試行錯誤の手法 | ・ Word カチェックドリル |
| ・ 段落情報の保持者はどこにいる | ・ Word ショートカット |
| ・ 段落概念の認識。改行と改段落の違い | ・ 触ることのできないインデントマーカー |
| ・ 行間論 | ・ 動的インデント分析と段落ダイアログ |
| ・ フォント層・段落層と Reveal Formatting の活用 | ・ リスト層の探究 |
| ・ 箇条書きとぶら下げインデント | ・ 入力オートフォーマットの原理 |

【スタイル活用編】

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| ・ リスト＝マトリックス理論 | ・ HMD の導入とファミリー認識の結合と切断 |
| ・ スタイル活用こそ Word の成功への一本道 | ・ スタイルカスタマイズ「更新法」と「変更法」 |
| ・ アウトラインレベルと見出しの関係 | ・ 目次の自動生成 |
| ・ 見出し連動型リスト | |

講義の進み方

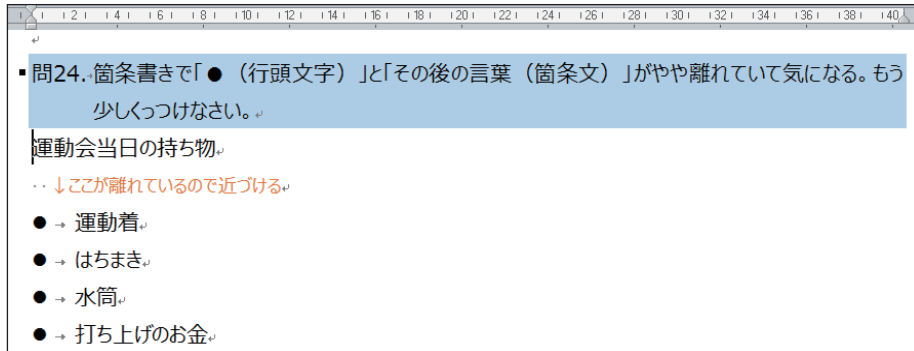
- ・ 通学講義で 50 分ごとに休憩が入る受けやすい講義です。集中力を切らさずに楽しく快適に学習できます。
- ・ 受講者は持参ノート PC での受講。プロジェクターで講師 PC の画面を投影しながら講義です。
- ・ 問題を解いていくミニマル・クエスチョンの後に、原理をロジカルに解説していきます。



原理解明講座の『ミニマルクエスチョン方式』

1つ1つの設問を約1分程度の単純な問題とし、身につけたい「原理」を詰め込んだ『ミニマル・クエスチョン方式』を採用。Word の不可思議な挙動を体験し、正しい解決策を探究していく。

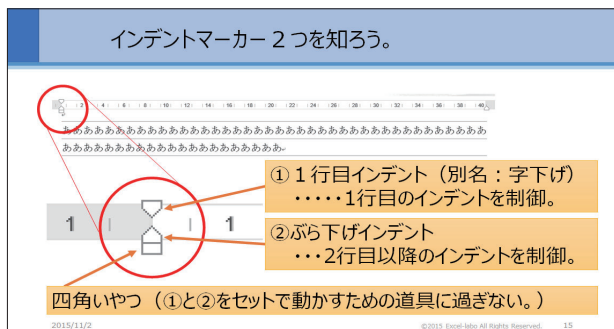
書類を作る従来の講座とは違います。「挙動を読み切る」「設定を考える」特殊なカリキュラムの講座です。



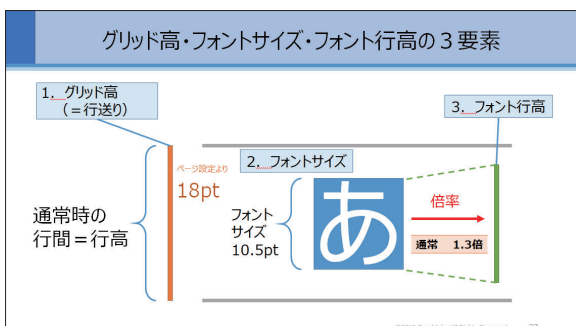
「新しい Word 原理」を構築する。原理解明講座の解説

一般的な用語や機能の使用方法に惑わされず、Word にありがちな「不適切な機能名称」「誤解しやすい機能」などをはつきりと指摘しながら、講師独自の観点から「新しい Word 原理を構築」して解説していきます。

例 1) 3つあるインデントマーカーは、本当は2つしかない。



例 2) 行間設定ができないのは、グリッド高の概念が抜けているからである。



連載『Excel ラボ』 開発インタビュー 4



『Word 原理解明講座』

もう『2020 年代』です。社会はずいぶん進歩しました。

しかし皆さんの Word スキルは、Word が普及した 2000 年頃から進歩したのでしょうか。IT が完全に一般化し、これだけ多くの人が Word を利用している今日にあっても、「Word は余裕」どころか、99% の Word ユーザーの利用法は「その場しのぎ」な『無理矢理 Word 術』です。

そこから脱出しようとした人も Word の難しさの前で挫折を強いられています。この講座は、その現状を打破し、複雑怪奇な Word の不可思議な挙動と正面から対峙する前代未聞の講座です。「なんとなくやり方を覚えようね」という、惰性・妥協の Word 講座ではありません。真に Word を会得したと思えるような『原理解明講座』として講義を展開していきます。ぜひ強い意欲と探究心を持って臨んでください。

講師略歴

- ・ Excel ラボ代表 ・ 東京大学 経済学部 卒
- ・ 法人研修として、監査法人・大手商社・保険会社・会計コンサルティングファームなど日々実施中。
- 現場のパフォーマンス向上にダイレクトに繋がる研修で大人気。

出発の思い：「調べても調べても、Word ができない。」

ー 『Word 原理解明講座』。少し難しそうなタイトルですね。どのような意図を持って付けられたのですか？

Word について、もし書籍や講習で一通り学習を終えたなら、「インデント」「表の作成」「箇条書き」みたいな 1 つ 1 つの項目のやり方を知ることができます。もし苦手な方でも過去に一度ぐらい Word 本を買って、こういった項目を学習されたことがあるかもしれません。

けれども、実務で使うなかでやっぱり Word の 1 つ 1 つの挙動が納得がいけないんですよね。

「箇条書きの文章の途中で、Enter を押したら、また「・」が 1 つできてしまった。単に改行したいだけなのに。「・」はいらないよ。」みたいに。とにかく機能を活用しようとするほど余計に「思うように動かない」。しかも Word の場合は、ネットで調べても解決策がなかなか見つからないから、結局「Backspace で記号を消してみたり、Space をたくさん入れてなんとかそれっぽく見えるように調整」するわけです。皆さんも、それでいいとは思っていないと思いますが、調べても何が正しいかわからないから、ごまかしてその場を切り抜けている。それが日本のほぼ全ての Word ユーザーの現状です。少し本格的に学んだ人も同じような壁に苦しみます。

なぜ、全員がいいかげんな Word の使い方をしてしまっているのでしょうか。

答えはシンプルです。それは、「Word は簡単。Word はパソコン初心者だけが躓くもので、深く学ぶべき内容はない。」という想定のもとに組み込まれているからです。これが間違いのもとです。実務 Excel 講座の講師をしている私の立場からはっきり言いますが、「Word は、Excel よりずっと難しい」です。その「難しい」ものに取り組むには、相当の原理と論理が必要になるということです。この講座の出発点は必ずそこからでないといけません。

Word はなぜ難しいか。

Word が難しい理由を 2 つ挙げます。

1 つは「目に見えない」からです。Excel は意外と目に見える設定が多いですよ。表示形式も、今どんな設定になっているかはダイアログを出せば確認できます。しかし、Word は 1 つの箇所にどんな書式設定が掛かっているのか「目に見えない」。だから、まずはその設定というものを「可視化」していくプロセス、言ってみれば透明人間に色付きスプレーをかけるようなプロセスを踏まなければいけません。

2 つ目は「1 つの現象」の起因となる操作が「いくつも可能である」が、「実は階層・強制力が違う」というものがあります。

たとえば、＜文字を赤字にする＞という結果を引き起こすためのやり方は無数にあります。「1. 該当の文字をドラッグして、フォントの色を赤に」というやり方もあれば、「2. 文字強調スタイルをかけてフォントの色を赤に」というやり方もあります。

またある段落にインデントをかけるやり方も、「インデントをかけたスタイルを作成し、そのスタイルを適用する」というやり方もあれば、「インデントマーカーを引っ張って1段落ずつ設定していく」というやり方もあります。

今、同じ結果を引き起こす複数のやり方を説明しましたが、これらは「対象階層」が異なるので、解除方法や設定変更方法が全く異なるものとなっていきます。

このように、Wordは「目に見えない」設定というものを扱いながら、「対象階層」を意識して、どんな挙動・設定となるかを読み切っていかなければ扱えない高度なソフトです。この高度なソフトを「なんとなく理解し、簡単に使う」ということはできないのです。

「講座の時間的コストパフォーマンスが高い」ということを私は実務 Excel 講座でよく言います。Excel は投下時間に対して得られる業務効率化のインパクトがどんな学習よりも高いという話です。Word では、確かに「月 10 時間かかっていた作業を月 1 時間に短縮したよ!」という実務 Excel 講座のような時間短縮はないかもしれませんが。

ただし、それ以外の部分では、Word 原理解明講座の効果は、明白です。

1. Word の一挙手一投足を追究することで、はじめて正しく Word の各機能を活用できるようになる。
2. 会社で唯一「Word の正しい使い方」を知っている人間になれる。
3. 一度、しっかり学べばこれから Word のトラブルを解決できるようになり、一生 Word で悩まずに済むようになる。

私は、「究める」ということをとても大切だと思っています。特に日々使うツールである Word や Excel においては、「曖昧な使い方でも何十年も苦労するぐらいなら、先にきちんと学んでおいた方が良い」という考え方をしています。

決意と、学問的探究心と、向上心。本質を理解する唯一無二の Word 講座。

一度学べば一生役に立つ。だからこそ、「Word は簡単だから、テキトーにやり過ごせばいいでしょ。」と軽視せず、正面から「難しい Word」と向き合って欲しいと思います。「Word では、時間短縮がどうのこうの」と人はいろいろ言うけれど、私は、「Word という汎用ソフトをきちんと正しく使えること」それ自体に、すごく価値があると思っています。そういう「ベストなあり方」を追究する姿勢がこれまでの IT 教育の世界には欠けているとも思っています。

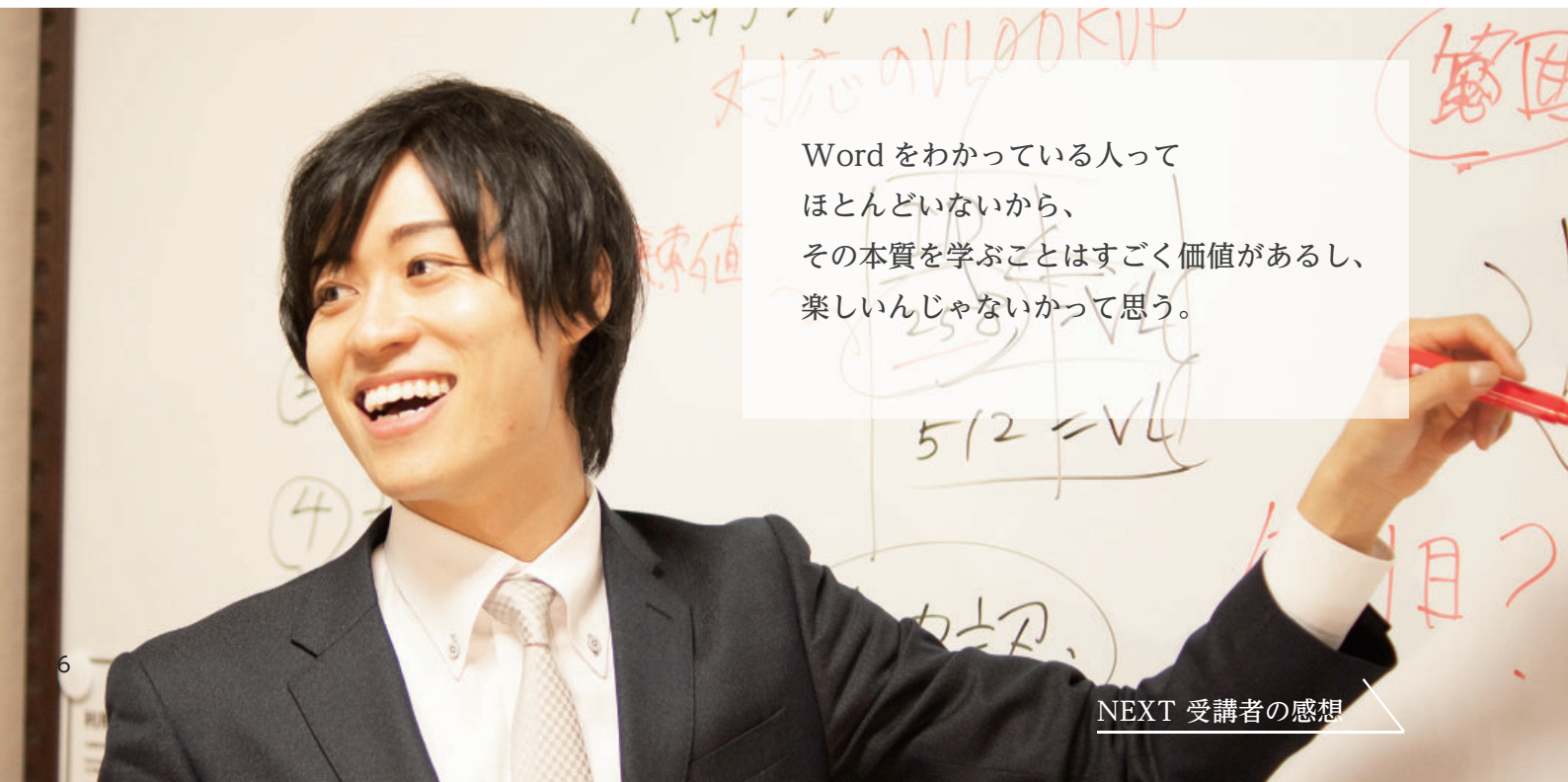
この講座の受講者は、Word を少し触ったことさえあれば予備知識は不要。Word の機能や基礎についてあまり知っていなくても全く問題ありません。ただ、絶対に必要なのは、「難しい Word を学んでやるんだ」という強い決意と、「Word の原理を探究し挙動を読み切る」という学問的探究心、そして「Word をマスターした自分になりたい」という向上心です。

簡単な Word 講座ではありません。

だからこそ、初めて Word の本質を理解できる唯一無二の講座になっています。

『Word 原理解明講座』。意欲と志ある「プロフェッショナルでありたい」皆様のご参加をお待ちしています。

講師より



Word をわかっている人って
ほとんどいないから、
その本質を学ぶことはすごく価値があるし、
楽しいんじゃないかって思う。



10 点

「Word 講座が始まってすぐに、Word がいかに奥が深いかを思い知らされました」 27 歳 経理職

「Word で習うことなんてあるのかな」と思っていたのですが、最初から知らない知識の連続でびっくりしました。先生が「Excel よりも Word の方が意味難しい」とおっしゃっていましたが、本当にそうだと思います。Word は「なんかおかしいな」といつも思って使っていましたが、道理で使いこなせないわけだと、講座を受けて納得しました。初級者向けの Word 講座は世の中にたくさんあると思いますが、ある程度 Word に慣れた人が本当に使いこなせるようになるために、ここまで明確に原理・挙動を説明される講座は他にないと思います。実務 Excel 講座の原理解説に感動した人で、Word の本当の使い方に興味がある人なら、絶対に受けたほうがいいのではないのでしょうか。



10 点

「箇条書きやオートコレクトのメカニズムが学びたかったけど、それ以上の恐るべき収穫」 33 歳 技術職

Word は「勝手に動く、謎のソフト」という認識がありました。(Enter を押したときに、思いもよらない結果になる)。マニュアル作成が多く、膨大な資料でも正しく箇条書きや段落番号の管理がしかなかったので受講しました。あと、オートコレクトも使いこなしたいと思っていました。実務 Excel 講座も前に受講したのですが、相変わらず先生の解説には驚異を感じました。行と段落の違いから始まり、「目に見えない Word」を「目に見える」ように解説していくわけで、『独学不能』を確信しました。日本全国で Word が使われていますが、ちゃんとわかっている人はほとんどいないと思います。Excel のときも思いましたが、一度きちんと学習するだけでその後永続的にドキュメントの品質が上がり、ビジネスの現場で胸を張れるスキルがつくので、本当に受けて良かったです。



10 点

「ここでしか学べない貴重な Word1 日講座。普段使っていて困る点にフォーカスしたベストな内容」
(21 歳大学生)

Word の短期講座は探してもここしか見つかりませんでしたが、ベストだと言える素晴らしい講座でありありがとうございました。レポート提出のたびに、Word がうまく動かずに大変な思いをしていたのですが、今回の講座で原因がはっきりわかって本当に助かりました。続編が出たら絶対受講します！よろしくお願いします！



10 点

「少し難しめだけれど、原理解説こそ従来の Word 講座に足りなかったもの。」
(大手コンサルティング会社 コンサルタント)

想像の遥か上をいく講義。「スタイル」機能によって、見出しを瞬でつけるというのがやりたくて参加したのですが、なるほど Word は本当に難しいんですね。書式の 4 階層構造理論で目がさめました。「基礎が一番難しい」ということを Excel 講座でも感じましたが、Word の基礎は非常に繊細に作られていて、指摘されなければ一生気づけなかったと思います。てっきり Word 講座なんて、インデントとかタブをちょっと習うのかなと思っていたのですが、まさに見えない「挙動と原理」のオンパレード。「挙動を読み解く」という言葉がふさわしい講座ですね。今までどこにもない、Word と正面から向き合った講座として、実務 Excel 講座と並び、実務界のスタンダードになる講座と確信しました。先生頑張ってください。



10 点

「Excel 講座を受けていたので、先生の Word 講座なら凄いいんじゃないかと思って参加しました！」
(40 歳 事務職)

Excel 講座で目からうろこだったので、好奇心余って Word 講座にも出てみました。さすがです！思ったよりも Word が複雑なのにまず驚きましたが、こうやって「ソフトの挙動を読み解く」という作業はビジネスパーソンにかなり重要な作業ですね。もう一生 Word には困らないと思いました。ずっと Word には悩んでいたけど、初めてしっかり使えそうで嬉しいです。スタイル機能がって本当に凄いですね。先生、ありがとうございます！

Excel ラボ 法人研修のご案内

法人様は、「法人研修の実施」をお気軽にご相談ください。

「Excel ラボの法人研修」で部署全体の実務スキルを一気に上げることが可能です！

【Excel ラボ 飯富講師 研修実施実績】

Big4 監査法人、自動車メーカー T 社グループ、自動車メーカー N グループ、また航空会社 A グループ、大手商社 I グループ企業、他にも多数の企業様で豊富な研修及びコンサルティング実績があります。

Excel ラボの法人研修をご受講された企業様のほとんどのアンケートで「今までの様々な研修の中でも一番役に立った。一番使う Excel・Word・PowerPoint なのにしっかり学ばず、自己流で利用してきたのが本当にもったいなかった。もっと早く受ければ良かった。」など大変ご好評いただいておりますので、安心してご依頼ください。

【Excel ラボ研修 実施講座一覧】

- ・『Excel ラボ（基礎編・応用編・パーフェクトオペレーション編・関数実践編）』
- ・『Excel VBA ラボ』・『Word 原理解明講座』・『光速の PowerPoint』
- ・『タイピングラボ』『Excel 動的配列数式ラボ』『Excel PowerQuery ラボ』

<法人研修ご相談の流れ>

新入社員全員研修・既存社員年次研修等、様々な研修としてご利用いただけます。
法人研修お問い合わせは、下記 URL から可能です。

法人研修お問合せ

Web サイト： <https://excel-labo.com/contact>

メールアドレス： contact@excel-labo.com

- ・参加人数：数名～数百名まで対応可能ですのでご相談ください。
- ・各講座のカリキュラムは、当パンフレット記載のものをご参考ください。
- ・研修場所は、ご依頼いただいた企業様の会議室・セミナールームに講師がお伺いします。
- ・ご参加人数分の MS Office 搭載のノート PC は企業様でご用意いただきますが、数が足りない場合は弊社のノート PC を貸出可能です。

Excel ラボの法人研修は、全ての研修で飯富講師が責任をもって講義を致します。
年間 1,500 人～ 2,000 人が受講する超人気研修ですので安心してご依頼ください。